

令和元年度 第 9 期ふくまる教志塾スタート

ふくまる教志塾がスタートしました

令和元年度ふくまる教志塾は、4月1日から5月7日の間、塾生の募集受付を行い、31名の大学生や社会人からの申し込みがありました。

5月11日（土）に面接を行い、全員を池田ふくまる教志塾の第9期生として認定しました。

そのうちの26名は、毎月のセミナーに加え、市内の各小中学校及び義務教育学校で現場実習生として教職員や子どもたちと直接かかわります。

また、セミナーだけに参加する聴講生は5名、そのうち学校現場で働きながら参加する特別聴講生は3名です。

第1回「ふくまる夢たまごセミナー（開塾式）」

日時 5月24日（金）18：00～20：00

場所 池田市庁舎 7階大会議室

内容 ①開塾の挨拶……池田市教育委員会 教育部長 西山充広

② 記念講演

演題 「教師をめざすみなさんへ」

講師 明石 一郎 先生（関西外国語大学教授）

③ ふくまる教志塾概要説明

④ 閉会

今年度最初の「第1回ふくまる夢たまごセミナー（開塾式）」には、特別聴講生を含む29名の塾生が参加しました。

「ふくまる塾長」は、29人の塾生のみなさんをエレベーターホールで出迎え、開塾式に出席し、緊張している塾生のみなさんを見守りました。



はじめに、西山教育部長から「池田市は、31名のみなさんをふくまる教志塾の9期生として迎えました。みなさんは、この教志塾で池田の教育について学び、将来は是非、池田市に勤め、先生として活躍してくれることを期待しています。」と、励ましの言葉がありました。

記念講演の講師、明石一朗先生は、母校である大阪府貝塚市立東小学校に初任として赴任されました。その後、大阪府教育委員会で活躍されたのち、貝塚市立西小学校に校長として着任、そして最後に母校の校長を勤められ退職されました。現在は、関西外国語大学教授として学生の教員養成等の指導にあたられています。



講演では、「教師をめざすみなさんへ」と題し、ユーモアを交えながら、豊かで優れた現場経験を軸に目指すべき教師像についてお話いただきました。

以下、明石先生が話された講演の内容（ポイント）と、塾生の「セミナー受講の感想」を掲載しています。



「教師をめざすみなさんへ」

子どもが好きな先生のベスト5

- ①ユーモアがある
- ②親しみやすい
- ③やさしく、きびしい
- ④一緒に遊んでくれる
- ⑤相談にのってくれる

子どもが嫌いな先生のベスト5

- ①えこひいきをする
- ②短気ですぐ怒る
- ③がんこである
- ④独断的である
- ⑤小言をよくいう

子どもが好きということ

- ①子どもに対する愛情と使命感（温かいまなざしと励まし）
- ②仕事への情熱と誠実さ（熱意・見識・行動力）
- ③厳しさとやさしさの両面
- ④愛情と信頼があれば、教育的指導は、子どもにしみこむ。
 - ・じっくり話を聞く。
 - ・子どもの良さに心を寄せる
 - ・課題を持つ子どもの気持ちがわかる。
 - ・とにかく、すぐ動く（初期対応が命）

＜塾生の感想より＞



○一番印象に残っているのは、教師は子どもたちに対して公平でいるということである。様々な成長過程、家庭環境、ハンディがある子どもたちの心に寄り添うことで、子どもたちは心を開いてくれという話のように、私はセミナー生として現場実習から子どもに寄り添うことを意識して挑みたいと思った。

- 明石先生の「失敗して恥をかってこそ成長できる」という言葉を聞いて、失敗を恐れず子どもから学ぶ姿勢を持って、子どもと共に楽しく学校生活を送ることができる先生になりたいと思いました。
- 授業がへたと言われてもあきらめず、次の年も研究授業に参加して、第三者の意見をもらい自分を磨いていく大切さを知ることができて良かったです。
- 心に残ったことは学校にいる8時間だけでなく学校外の16時間を過ごす子どもに心を寄せるということです。現場で子どもと関わっていても、やはり、家庭環境が子どもに大きな影響を与えていると感じます。表面的な問題を指導するだけでなく、子どもの背景をしっかりと考え一人ひとりによりそった指導ができる教員になりたいと思いました。

開塾式直後ということもあり、緊張のうちに始まった記念講演でしたが、明石先生のユーモアにあふれた説得力のある話に塾生のみなさんは、真剣に聞き入っていました。



講演会終了後は、今年度のふくまる教志塾の概要、担当者の自己紹介、提出書類等の説明があり、閉会となりました。

閉会後も同じ学校へ現場自習に行くみなさんが自己紹介を兼ねて情報交換をしている姿には、不安と緊張の中にも、やる気と活気に満ちた第1回ふくまる夢たまごセミナー（開塾式）を終えることができました。